


平成29年度 都立学校・学校経営シート

校章	 都立府中けやきの森学園		肢体不自由・知的障害	基	通学区域 府中市、調布市、狛江市、三鷹市以下肢体不自由部門のみ小金井市、国立市、武蔵野市、国分寺市、立川市(一部)
	教職員が一体となった「チームけやきの森」を構築し、東京都 No. 1の特別支援教育力を実現する。				進路実績 平成28年度企業就労 知的障害教育部門高等部41.9%、希望者の就労100%
基本	所在地	〒183-0003 府中市朝日町三丁目14番1号	電話番号 042-367-2511	本	教育課程の特徴
	アクセス	(1) 【本校】京王線 飛田給駅 下車 徒歩15分 (2) 【本校】西武多摩川線 多磨駅 下車 徒歩17分 (3) 【くぬぎ分教室】JR中央線 西国分寺駅下車 徒歩20分			
本	設置学部	肢体不自由教育部門；小学部、中学部、高等部、訪問学級、分教室 知的障害教育部門；小学部、中学部、高等部		情	副籍実施状況
	幼児・児童生徒数	肢体不自由教育部門；153名 知的障害教育部門；301名 計454名			
報	学級数	肢体不自由教育部門；小学部16学級、中学部10学級、高等部10学級、分教室2学級		報	学校評価
	スクールバス	知的障害教育部門；小学部13学級、中学部6学級、高等部33学級 肢体不自由教育部門；11台 知的障害教育部門；3台			
その他	【訪問学級】 在宅訪問 【くぬぎ分教室】 都立府中療育センター 府中市武蔵台2-9-2 府中療育センター内			ホームページ	http://www.fuchu-keiyaku-sh.metro.tokyo.jp/

目指す学校	1 教職員が一体となった「チームけやきの森」を構築し、小学部から高等部まで一貫した教育を実践する学校 2 児童・生徒一人一人の障害特性、身体機能の状態、発達段階及び教育ニーズに応じた専門的な教育を推進する学校 3 個々の能力を高め、適性を見出し、児童・生徒一人一人の健康の保持増進、体力の向上を図り、自立と社会参加を目指すとともに、社会の一員として社会貢献ができる人材を育成する学校
-------	---

今年度の重点目標		今年度の取組と自己評価	
目標①	専門性の向上に向けた校内・外の研修・研究の推進 授業力向上支援センターを機能させ、外部専門家の指導・助言を反映した個別指導計画を作成し、自立し社会参加する力を一人一人の児童・生徒につけ、卒業後の進路希望を実現する。小学部から高等部までの系統的な教育を推進するための授業研究に全教職員が取り組む。	研究授業の成果を、夏季、冬季に授業改善サミットとして実施し、授業実践を50名以上の外部の参加者に向けポスター発表した。また、ユニバーサルデザインやアクティブラーニングの実践について、校内で研究授業や協議会の中で研鑽を図るとともに、地域の学校とも実践を共有できた。外部専門家の助言を受けながら、自立活動計画の目標、内容の改善に取り組むことができ、学期末に自立活動指導内容表の見直しに反映させた。企業就労率は、47.4%と昨年度よりも5%以上増え、全生徒の進路希望は100%を達成した。作業班による近隣施設への鉢花設置などの地域貢献を行い、現場実習以外にも社会参加の機会を増やしていった。	
目標②	各市教委と連携し、地域の学校と共に障害のある児童・生徒の指導の充実 府中市や調布市の小・中学校と連携し、児童・生徒が「分かる・できる」を大切にしたユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業を創意工夫する。教員相互の交流研修の実施、コーディネーターや進路専任の派遣、地域指定校交流の充実など、地域と共に特別支援教育に関する指導力を高めていく。	府中市の講演を受け、1月の全国公開研では全国から185名が参加し、研究の成果を広く発信した。また、ICT教育実践や教材教具で優れているものを冊子にし、公開研の参加者や地域の学校に配布することで、特別支援教育の理解啓発に務めた。 地域の学校で新たな通級システムが始まり、本校のセンター校としての役割が高まる中、特別支援教育コーディネーターを地域の小・中学校に278回派遣し、特別支援教育に関する校内研修の講師を務めた。主幹教諭や主任教諭も地域の小・中学校を訪問し、授業の助言や研修会の講師として協力するなど進展した。	
目標③	東京都指定校研究から得られた知見を活かした教育の充実 「オリンピック・パラリンピックアワード校」「スポーツ教育推進校」「日本の伝統・文化教育推進校」の取組を進める。指定校研究を相互に組み合わせ、授業や校内研究の充実を図る。「宿泊防災訓練」に向けて、防災等危機管理体制を構築するとともに、BCPを作成し防災体制を強化する。	オリンピック・パラリンピック教育に関して、ボッチャ、ラグビー、車いすバドミントン等のパラリンピアン等の多くの外部講師を活用した授業や交流を行い、児童・生徒のオリンピック・パラリンピックへの意識を高めた。さらに、地域の学校からの依頼を受けボッチャの出前授業を実施したり、工業高校にボッチャのランプを製作する際の助言を行ったりした。また、東京外国語大学の留学生と、伝統・文化やスポーツを通じた交流を行い、日本の伝統文化や異文化への理解を深めることができた。防災教育推進委員会等と連携しながら、BCPを作成し、危機管理計画の中に反映させた。	

数値目標	今年度の数値目標の内容	26年度		27年度		28年度		今年度		30年度	31年度	32年度
		目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	目標	目標
目標①	事故ゼロを目指す 全校総合防災訓練の実施	事故0	事故1	事故0	事故0	事故0	事故1	事故0	事故2			
目標②	キャリア教育をテーマにした公開授業研究会の実施	100名	93名	150名	202名	180名	252名	200名	185名			
目標③	個に応じた指導と授業評価保護者満足度80%以上	300名	260名	330名	335名	340名	399名	363名	350名			

